

# Kokokala news 6.7.8月.Vol.04

〒410-1105 静岡県裾野市下和田249-12 Tel:055-941-7333 就労継続支援A型・B型事業所 ここから

## 特集：清水・戸田レース 5月31日

### 清水戸田レース賞品のセイルバッグ制作秘話

「ここから」の商品ブランドである「souan craft」のトートバックをご注文いただき、製作いたしました。各ヨットの名前をプリントした、世界で1つのトートバック。今回はそのセイルバッグの製作過程を、各過程それぞれの部門がどのように乗り越えたのか、文章を中心にご紹介していきたいと思います。

〈セイルバッグ作成の初期段階 縫製〉

セイルクロス生地の採寸、カットを経てサイドと底部分の縫い合わせ。袋口の縫い合わせは最初、うまくいかない部分もありました。タグの位置は目立たず素敵に見える位置はどこか考え、サイドにすることにしました。(縫製部門担当者)

〈セイルバッグの形ができた上で、次はSHIMIZU・HEDAのロゴと各ヨットのネームの圧着〉

セイルバッグの形ができた後、圧着シートにデザインソフトを使って、デザインをインプットさせ専用機械でデザインの形を刻み、熱処理をし、バッグにプリントを貼り付けを行いました。

圧着シートにデザインを専用機で刻んだあと、字やロゴをピンセットや小さなカッターを使って細かく字を抜く作業に集中力と根気が必要でした。特に難しい文字はAなのです。なぜ難しいのか？Aという字の真ん中の、紙の上で表示すると白く残っている部分、だけ、残して、あとの字の部分は抜くのです。これが真ん中の部分が慎重にやっても、残念ながらとれてしまうことが多く、一番神経を使い、苦労しました。それでも最終的に皆で協力して仕上げることでよかったです。(圧着シートプリント部門担当 利用者)

### ・圧着シートの熱で貼り付ける難しさ

ホットプレス機でバッグになる生地に圧着するのですが、温度を高くしすぎるとセイルクロス生地が変形してしまいます。温度が低すぎるとシートが生地に中々定着してくれません。丁度良い温度、丁度良い時間を見極めるのには何回もテストを繰り返しました。

熱でバッグにプリントを圧着した後、シートの上にかぶせてある膜を慎重にはがして、貼り付けたプリントのロゴだけ残します。これが非常に難しい。

早まって、この膜を急いではがしてしまうと、圧着してプリントしたところまでビニールについてきてしまう。慎重にはがしては、アイロンで剥がれそうな箇所を、またかぶせてあった膜を戻し、上から熱でまた丁寧に押し当てる。その繰り返しの作業を行った後、さらに膜を完全にはがし終わった後も仕上げに、さっと熱を加えずにアイロンがけをするところまで、製品として完璧を目指しました。(圧着シートプリント部門担当者)

### 〈ロープ通しを含めた完成まで〉

仕上げ！マチの部分縫って、縫製部のフィニッシュです。グロメント（ロープを通す穴）を作成後、持ち手のロープを通し、長さ調節できるようにロープを縛りました。初めての縛り方で、事業所の利用者さん達も悪戦苦闘。でも、一生懸命作りました。(縫製部門担当者)

ご注文いただいた「ここから」の商品ブランドである「Souan craft」のセイルバッグを、製作するにあたりどのような過程を経て、完成に至ったかをご紹介させていただきました。当日、レースに参加された皆様方に大変ご好評をいただき、とても達成感と共にありがたみを感じた次第です。ありがとうございました。



### 清水戸田レース スタート前と、悪天候の中でのレースの奮闘

7:00からエスパルスドリームプラザ前のヨットハーバーに係留してある something の艦装を（コントロールロープやセイルその他のセッティング）行った後、戦略ミーティングを行いました。天気予報は昼前から風速2m、南西から南風にシフト、曇り一時小雨の予想。しかし、朝から風速10m以上の風が吹き荒れていました。水分補給のドリンクと食料を大量に買い込みドックアウト（出艇）。

海面に出るとうねりと風が強く、28フィートの something（出場艇の中では2番目に小さい）では不利な条件だなと思いつつも、普段強風に乗り慣れていないヨットもいるので、スタート出来るかどうか心配をしながらも、強風対応のクルーワーク（操船技術）確認とヨットスピードチェックをしていました。案の定レーススタートは延期。全艇防波堤の内側に待機と指示がありコンディション改善するまで待ちました。その間に調達してきた食料を食べ、朝昼兼ねて満腹。



10時50分スタートが11時20分に変更になり風速7から8mのコンディションでスタート。ヨットレースのルールをよく知らないチームもあるので、スタートは安全策をとり、スタボードタックと風下有利（優先権の位置）で右海面に。スタートしてしばらくすると雨が強くなりカッパ着用。大型艇有利な海面だけど、TracTrac（GPSで全艇の位置が分かるシステム）をiPadで確認するとハンディキャップで優勝を狙える位置にいました。この時すでに何艇かリタイヤしエンジンを使って戸田に向かうヨットがいました。



フィニッシュ間際1マイル（1.6km）のところまで向い潮につかまり、大型艇有利になってしまい30分ほど前に進めませんでした。結果は9位。雨に降られ潮に翻弄され寒さと疲れがドッと来ました。上陸すると陸上スタッフの笑顔が疲労した体を癒してくれました。

### 陸上班状況

陸上販売班が戸田に到着してから、曇りの天気から山の方からは雷が、果たして清水の天気はどうなっているのかと、皆は心配し始めました。大会関係者の方がトランシーバーでやり取りをした後、「清水は強風のため、スタート時間が遅れます。ご了承ください。」案の定、悪天候下に清水はある。清水からくるはずの「ここからヨットチーム」はどうなっているのか、大会そのものはどうなるのか。販売者やお客様も雨が強くなるにつれて人がいなくなり、営業自体も大雨の中、「ここから」が用意していたテントを増設して椅子と机を運び入れ、清水から戸田に着いた方々が座れるようにして時を待ちました。予定より30分遅れの11:20清水スタート、レースがやっと開始となりました。大会関係者の方に教えてもらい、アプリで今現在の各ヨットの位置情報がリアルタイムで分かるようで、さっそく確認、しかし湾の遠方を見ても、まったくヨットは見えません。